

東京都 医学検査

Journal of Tokyo
Metropolitan
Medical Technologists

October 1 2023
Vol.51 No.3 通巻 275 号

【特集】結核菌のpyrazinamide感受性の重要性和結果判定時の注意点について

初回標準治療例の標準的治療法

原則として RFP, INH, PZA を用いる下記の治療法を用いる。

RFP + INH + PZA に EB (または SM) の 4 剤併用で初期強化期 2 ヶ月間治療後、維持期は RFP + INH を 4 ヶ月継続し、全治療期間を 6 ヶ月 (180 日) とする。

なお、下記の条件がある場合には維持期を 3 ヶ月延長し、維持期を 7 ヶ月、全治療期間 9 ヶ月 (270 日) とすることができる。

- (1) 結核再治療例
- (2) 治療開始時結核が重症：有空洞（特に広汎空洞型）例、粟粒結核、結核性髄膜炎
- (3) 排菌陰性化遅延：初期 2 ヶ月の治療後も培養陽性
- (4) 免疫低下を伴う合併症：HIV 感染、糖尿病、塵肺、関節リウマチ等の自己免疫疾患
- (5) 免疫抑制剤等の使用：副腎皮質ステロイド剤、その他の免疫抑制剤
- (6) その他：骨関節結核で病巣の改善が遅延している場合など

PZA薬剤感受性試験の種類

検査法	培地の種類	所要日数	方法概要
MGIT シリーズ ピラジナミド	液体培地	4 ~ 21 日	自動検出機による判定 (比率法)
結核菌感受性 PZA 液体培地	液体培地	7 ~ 14 日	試験培地法 (比率法)
ジェノスカラー・PZA TB II	核酸検査	5 ~ 6 時間	臨床検体あるいは分離菌を用いたラインプローブアッセイ

感受性



① PZA100培地に発育を認めない場合

② PZA100培地に発育を認めるが、PZA0培地と比較し明らかに小さい場合



③ PZA100培地に発育を認めるが、PZA0培地と比べて小さく、PZA400培地の発育がPZA0培地と比較して明らかに小さい場合

結核菌感受性 PZA液体培地 判定例

耐性



PZA100培地およびPZA400培地に菌発育を認め、その菌塊径がPZA0培地と同等である場合

判定上の注意点：上記判定基準のいずれにもあてはまらない場合は、再試験あるいは他の確認試験を行って下さい。



公益社団法人 **東京都臨床検査技師会**
Tokyo Metropolitan Association of Medical Technologists

URL: <https://www.tmamt.or.jp>